

てんかん発作マニュアル

発作に出会った時の心がけ

「てんかん発作」は、発作を繰り返す病気であり、発作そのものが命に係わる事はほぼありません。

不安・動揺・緊張・戸惑いを経験しながら正しい介助にたどり着くので発作と出会ったらまず次の事を実施してください。

1、介助者自身の気を落ち着かせ、冷静になる。

2、騒ぎ立てない。

3、すぐに救急車は呼ばない

それができたら発作対し必要な介助度合を観察から判断していきましょう。

- 1、意識の曇りの深さと時間
- 2、けいれんの度合いとその範囲
- 3、姿勢の維持、倒れ方のスピード
- 4、発作をおこした状況の危険度や人の量

この4点の要因が多く強ければ、より多くの配慮が必要です

観察から次に当てはまる症状があれば介助してください

- ① 大きなけいれん発作
- ② 意識が雲っているが歩き回る
- ③ 発作直後、急に崩れるように倒れた
- ④ 発作中にしてはいけない事
- ⑤ もし救急車の判断がつかない時

① 発作の介助（大きなけいれん発作）

大きなけいれん発作がおこったら、本人の安全を確保するために、次のことを行ってください。

- 1、火や水辺、高い場所、機械のそばなど、危険な物・場所の近くから遠ざける
- 2、本人がけがをしないように気を配る
(頭の下にクッションを入れる等)
- 3、衣服の襟元をゆるめ、ベルトをはずす
- 4、眼鏡、ヘアピンなどけがをする可能性のあるものをはずす

けいれん発作がおさまったら、体を横に向けて（膝を曲げて肩をおこすと横に向けやすい）、呼吸がもとに戻るのを待ちます。そして、意識が回復するまでそのまま静かに寝かせます。

食事中や食事直後に発作がおきると、嘔吐する場合があります。この際は、吐いたものを誤って飲み込み、窒息することがあり危険ですので、体を横に向けることは重要です。

② 発作の介助（自動症）

けいれんはないけれど、数分間意識が曇ってあちこちを歩き回ったりする、一見目的にかなった動きを示す発作（自動症）があります。

このとき本人には意識がないので、無理にその行動を制止してはいけません。抑制の方法によっては、思わぬ抵抗を示す場合があります。

こうした、意識がもうろうとする発作では、始まりと終わりがはっきりしない場合が多いのですが、意識が回復するまで、一定の距離を保っててんかんのある人とともに移動し、もし、周囲に危険なものがあれば取り除き、注意深く回復を待ってください。

③ 発作の介助（転倒発作）

転倒発作は、急に崩れるように倒れるなど、通常に倒れる時とは違って身をかばうことが全くできないため、頭や顔に傷を受けることが多くあります。

転倒発作のある人の場合、次のことを注意してください。

- 1、転倒発作が繰り返しおきている期間には、眼の届かない場所に一人にしない
- 2、歩行するときにはできるだけ手をつなぐ
- 3、保護帽の着用、又は頭部を守るもの着用

保護帽はその人の頭の形にあった物を、その人の傷をもっともよく防ぐことができるもの

④ 発作中にはしてはならない事

発作は止めようとして止まるものではありません。

- 1、体をゆする
- 2、大声をかける
- 3、叩く
- 4、押さえつける

このようなことをしても、発作が早く終わることはありませんので、注意しましょう。

また、口を無理にこじ開けて指や箸、スプーン、ハンカチなどを入れてはいけません。気がついた時には、すでに口の中をかんでしまっていることが多く、役立ちません。かえって口の中を傷つけたり、歯を折ったり嘔吐を誘発します。

また、発作が終わった直後の意識が曇っている間に、水や薬を飲ませてはいけません。窒息や嘔吐の原因になります。発作中は騒がず注意深く見守ることが大切です。

⑤ 救急搬送が必要な発作

以下のようなときは、医師による処置が必要です。救急車で近くの病院を受診してください。

- 1、けいれんのあるなしに関わらず、意識の曇る発作が短い間隔で繰り返す
- 2、発作と発作の間で意識が回復していない状態のまま繰り返す
- 3、1回のけいれん発作が5分以上続き止まらない